

井上円了略年譜

安政5 (一八五八年)

2・4 越後国(新潟県)、真宗大谷派慈光

寺の長男として誕生(新暦3月18日)

慶応4・明治1 (一八六八年) ……10歳

3月 石黒忠恵の漢学塾に学ぶ(明治2年

4月まで)

明治2 (一八六九年) ……11歳

8月 木村鈍叟(旧長岡藩士)に漢学を学

ぶ(明治5年12月まで)

明治4 (一八七一年) ……13歳

4・2 東本願寺にて得度

明治6 (一八七三年) ……15歳

5・29 高山楽群社に入り洋学を学ぶ

明治7 (一八七四年) ……16歳

5・5 新潟学校第一分校(旧長岡洋学校)

に入学し洋学を学ぶ

明治10 (一八七七年) ……19歳

9月 京都・東本願寺の教師教校英学科に

入学

明治11 (一八七八年) ……20歳

4・8 東本願寺留学生として上京

9月 東京大学予備門に入学

明治14 (一八八一年) ……23歳

9月 東京大学文学部哲学科に入学

明治17	(一八八四年) …… 26歳	明治21	(一八八八年) …… 30歳
1・26	井上哲次郎、加藤弘之、西周、三宅雪嶺らと相談して「哲学会」を創立	1・8	『哲学館講義録』を創刊し、通信教育を開始
明治18	(一八八五年) …… 27歳	4・3	政教社が雑誌『日本人』を創刊、同社の創設に参加
7・10	東京大学文学部哲学科を卒業	6・9	第一回海外視察(欧米)に出発
10・27	第一回哲学祭を举行	明治22	(一八八九年) …… 31歳
明治19	(一八八六年) …… 28歳	6・28	海外視察より帰国
1・24	不思議研究会を開催	8・28	郷里の父に宛て、仏教が危急存亡の重大時局にあり帰郷して住職となることを断る手紙を出す
春	熱海で病氣療養中に、哲学館設立の構想をつくる	8月	「哲学館将来ノ目的」で将来日本主義の大学を設立することを発表
11・1	金沢藩医吉田淳一郎の娘敬と結婚	9・11	台風のため新築中の校舍全棟倒壊
明治20	(一八八七年) …… 29歳	11・1	本郷区駒込蓬萊町の新校舎に移転し、寄宿舎も開設
1月	哲学書院設立	11・13	哲学館移転式(新校舎落成開館式)を举行
2・5	『哲学会雑誌』を創刊		
6月	『哲学館開設ノ旨趣』を発表		
7・22	私立学校設置願を東京府知事に提出		
9・16	哲学館を創立。麟祥院(現在の東京都文京区)で開館式を举行		

明治23	(一八九〇年) …… 32歳	明治29	(一八九六年) …… 38歳
3・10	文部省に教員免許無試験検定の認定を申請	1月	東洋大学科設立と東洋図書館建設の旨趣を発表
4・13	哲学館で日曜講義を開催	3・24	第二回全国巡講開始(明治35年9月まで継続)
7・6	哲学館内に哲学研究会を結成	6・8	論題「仏教哲学系統論」により文学博士の学位を受ける
11・2	哲学館専門科設立の基金募集のため全国巡講を開始(明治26年2月まで継続)	12・13	郁文館より失火、哲学館に類焼の上全焼
明治26	(一八九三年) …… 35歳	明治30	(一八九七年) …… 39歳
11月	『哲学館講義録』(第七学年度)として「妖怪学」を発行。迷信打破のため、妖怪研究会を設立	1・10	漢学専修科の開講式を挙行
明治27	(一八九四年) …… 36歳	4・8	仏教専修科の開講式を挙行
	教員免許無試験検定の認定を再申請	7・17	哲学館、原町(現在の文京区白山校地)に移転
明治28	(一八九五年) …… 37歳	8・25	宮内省より恩賜金三百円を受ける
9月	哲学館入試制度となる	明治32	(一八九九年) …… 41歳
	学制を改め教育学部、宗教学部の二学部を設置	2・26	京北中学校の開校式を挙行
		7・10	哲学館、教員免許無試験検定の認可

- 9月 を受ける
- 学制を変更し、教育部と哲学部とし、また漢学専修科を教育部に、仏教専修科を哲学部に合併
- 明治33 (一九〇〇年) ……42歳
- 4・2 文部省より修身教科書調査委員を委嘱される
- 明治34 (一九〇一年) ……43歳
- 9・16 学制を改革し、予科を第一科第二科に、本科教育部と哲学部をそれぞれ第一科第二科に分ける
- 10・25 内閣より高等教育会議議員を嘱託される
- 明治35 (一九〇二年) ……44歳
- 4・1 「哲学館大学部開設予告」を發表
- 10・25 哲学館卒業試験に文部省視学官の監査を受ける
- 11・15 第二回海外視察(欧米およびインド)
- 12・13 に出発
- 文部省、哲学館の中等教員無試験検定の特典を剝奪する(哲学館事件発生)
- 明治36 (一九〇三年) ……45歳
- 2・1 ロンドンより哲学館事件に関する指示を送る
- 4・20 哲学館、円了の命により文部省へ教員免許資格に関する嘆願書を提出
- 7・27 海外視察より帰国
- 9・5 「広く同窓諸子に告ぐ」を發表
- 9・14 修身教会設立趣意書を全国に配布
- 10・1 私立哲学館大学と改称し、専門学校令による設置を認可される
- 明治37 (一九〇四年) ……46歳
- 1・15 第三回全国巡講を開始
- 2・11 『修身教会雑誌』第一号を發行
- 4・1 哲学館大学の開校式を挙行。哲学館

夏

大学長に就任。大学部を開設

哲学堂（現在の東京都中野区・哲学堂公園の四聖堂）開堂式を挙行

神経の疲労を覚え始める。学校を解散し、講習会組織に改めることを考える

10月 哲学館大学革新事件起こる（12月）

明治38（一九〇五年）……47歳

4月 神経的疲労が再発、退隱の意志を起こす。その後快方に向かう

5・3 京北幼稚園の開園式を挙行

9月 哲学館大学、京北中学校の一層の拡張を計ったのち退隱することを考える

12月（初旬）二度も庭前で卒倒しそうになる

12・13 哲学館大学記念会を上野精養軒で行い、帰宅後退隱を決意する

12・28 前田慧雲、湯本武比古への学校譲渡の契約を完了（29日）

明治39（一九〇六年）……48歳

1月 哲学館大学長、京北中学校長を辞し、名誉学長・名誉校長となる

4・2 哲学堂に退隱。修身教会拡張に従事修身教会運動のため、全国を巡講する（大正8年まで）

6・28 哲学館大学の「私立東洋大学」への改称が認可される

7・4 財団法人私立東洋大学の設立が認可される

明治40（一九〇七年）……49歳

5・13 文部省より教員免許無試験検定の取扱を再認可される

明治42（一九〇九年）……51歳

11月 哲学堂に哲理門・六賢台・三学亭が建築される

- 明治44 (一九一一年) …… 53歳
- 4・1 第三回海外視察(オーストラリア、南アフリカ、南米、北米、南洋諸島)に出発
- 明治45・大正1 (一九一二年) …… 54歳
- 1・22 海外視察より帰国
- 8月 修身教会を「国民道德普及会」と改称
- 大正4 (一九一五年) …… 57歳
- 10・24 哲学堂図書館(絶対城)の落成式を挙行。現在の哲学堂公園の景況がほぼ出来あがる
- 10月 政府からの表彰の議(大正1年9月に続いて二度目)を固辞する
- 大正8 (一九一九年) …… 61歳
- 2・3 「教育上私立学校に対する卑見」を朝日新聞に発表
- 5・5 中国、満州(東北地方)の巡講に出発
- 6・6 6月5日大連で講演中脳溢血を起こし、6日午前2時40分逝去
- 6・22 東洋大学葬を挙行

井上円了主要著作

〔分野別年代順〕

●哲学

哲学一夕話 第一編

明治十九年七月

井上円了 (四聖堂蔵版)

哲学一夕話 第二編

明治十九年十一月

井上円了 (四聖堂蔵版)

哲学一夕話 第三編

明治二十年四月

哲学書院

哲学要領 前編

明治十九年九月

令知会

哲学要領 後編

明治二十年四月

哲学書院

純正哲学 (哲学総論、講義録)

明治二十四年二〜九月

哲学館

哲学早わかり

明治三十二年二月

開発社

哲学新案

明治四十二年十二月

弘道館

奮闘哲学

大正六年五月

東亜堂書房

●宗教

真理金針 初編

明治十九年十二月

山本留吉

真理金針 続編

明治十九年十一月

山本留吉

真理金針 続々編

明治二十年一月

長沼清忠

仏教活論序論	明治二十年二月	哲学書院
仏教活論本論 第一編 破邪活論	明治二十年十二月	哲学書院
仏教活論本論 第二編 顕正活論	明治二十三年九月	哲学書院
實際の宗教学 (講義録)	明治二十三年一〜九月	哲学館
理論の宗教学 (講義録)	明治二十四年十一月	哲学館
宗教哲学 (講義録)	明治二十五年十一月 〜二十六年十月	哲学館
教育宗教關係論	明治二十六年四月	哲学館
外道哲学 (仏教哲学系統論 第一編)	明治三十年二月	哲学館講義録出版部
印度哲学綱要	明治三十一年七月	金港堂書籍
大乘哲学 (講義録 仏教科 第十四輯)	明治三十八年十二月	哲学館大学
活仏教	大正一年九月	丙午出版社
●倫理		
倫理通論 第一編	明治二十年二月	普及舎
倫理通論 第二編	明治二十年四月	普及舎
日本倫理学案	明治二十六年一月	哲学館
忠孝活論	明治二十六年七月	哲学書院

勅語玄義	明治三十五年十月	哲学館
●心理		
心理摘要	明治三十年九月	哲学書院
記憶術講義	明治三十七年二月	哲学館
失念術講義	明治三十八年八月	哲学館
心理療法	明治三十七年十一月	南江堂書店
●妖怪学		
妖怪学講義（講義録、合本六冊）	明治三十九年六月	哲学館
妖怪百談	明治三十一年二月	四聖堂
靈魂不滅論	明治三十二年四月	南江堂書店
哲学うらなひ（妖怪叢書第一編）	明治三十四年十二月	哲学館
改良新案の夢（妖怪叢書第二編）	明治三十七年一月	哲学館
天狗論（妖怪叢書第三編）	明治三十六年十二月	哲学館
迷信解（妖怪叢書第四編）	明治三十七年九月	哲学館
おぼけの正体	大正三年七月	丙午出版社
迷信と宗教	大正五年三月	至誠堂書店
真怪	大正八年三月	丙午出版社
●随筆・その他		

欧米各国政教日記	上編	明治二十二年八月	哲学書院
欧米各国政教日記	下編	明治二十二年十二月	哲学書院
星界想遊記		明治二十三年二月	哲学書院
円了茶話		明治三十五年一月	哲学館
甫水論集		明治三十五年四月	博文館
西航日録		明治三十七年一月	鷄声堂
円了講話集		明治三十七年三月	鴻盟社
南船北馬集	第一編	明治四十一年十二月	修身教会擴張事務所
南船北馬集	第二編	明治四十二年一月	修身教会擴張事務所
南船北馬集	第三編	明治四十二年一月	修身教会擴張事務所
南船北馬集	第四編	明治四十三年一月	修身教会擴張事務所
南船北馬集	第五編	明治四十三年十二月	修身教会擴張事務所
南半球五万哩		明治四十五年三月	丙午出版社
南船北馬集	第六編	明治四十五年四月	修身教会擴張事務所
南船北馬集	第七編	大正二年六月	国民道德普及会
南船北馬集	第八編	大正三年二月	国民道德普及会
南船北馬集	第九編	大正三年七月	国民道德普及会
南船北馬集	第十編	大正四年二月	国民道德普及会

南船北馬集	第十一編	大正四年十二月	国民道德普及会
哲窓茶話		大正五年五月	磯部甲陽堂
南船北馬集	第十二編	大正五年六月	国民道德普及会
南船北馬集	第十三編	大正六年六月	国民道德普及会
南船北馬集	第十四編	大正七年一月	国民道德普及会
南船北馬集	第十五編	大正七年十一月	国民道德普及会

なお、現代の読者のために、井上円了の主要な著書を読みやすくし、巻末に解説を付した『井上円了選集』が刊行されている。同選集に収録されている著書はつぎのとおりである。

井上円了選集

- 第一卷——哲学一夕話（第一・二・三編）、哲学要領（前・後編）、純正哲学講義（哲学総論）、哲学一朝話、哲学新案
- 第二卷——哲学早わかり、哲界一瞥、哲窓茶話、奮闘哲学
- 第三卷——真理金針（初・続・続々編）、仏教活論序論
- 第四卷——仏教活論本論 第一編 破邪活論、仏教活論本論 第二編 顕正活論、活仏教
- 第五卷——仏教通観、仏教大意、大乘哲学
- 第六卷——日本仏教、真宗哲学序論、禅宗哲学序論、日宗哲学序論
- 第七卷——純正哲学講義、仏教哲学、印度哲学綱要、仏教理科、破唯物論

第八卷——宗教新論、日本政教論、比較宗教学、宗教学講義 宗教制度、宗教哲学

第九卷——心理摘要、通信教授 心理学、東洋心理学

第一〇卷——仏教心理学、心理療法、活用自在 新記憶術

第一卷——倫理通論、倫理摘要、日本倫理学案、忠孝活論、勅語玄義、教育総論、教育宗教

關係論

第一二卷——「館主巡回日記」(『哲学館講義録』等)、南船北馬集(第一・二・三編)

第一三卷——南船北馬集(第四・五・六・七・八編)

第一四卷——南船北馬集(第九・十・十一・十二編)

第一五卷——南船北馬集(第十三・十四・十五・十六編)

第一六卷——妖怪学講義(第一・二分冊)

第一七卷——妖怪学講義(第三・四分冊)

第一八卷——妖怪学講義(第五・六分冊)

第一九卷——妖怪玄談、妖怪百談、続妖怪百談、靈魂不滅論、哲学うらない、改良新案の夢、

天狗論、迷信解

第二〇卷——おぼけの正体、迷信と宗教、真怪

第二一卷——妖怪学、妖怪学講義録、妖怪学雑誌、妖怪学關係論文等

第二二卷——外道哲学

第二三卷——欧米各国政教日記(上・下編)、西航日録、南半球五万哩

第二四卷——星界想遊記、円了隨筆、円了茶話、円了漫録

第二五卷——甫水論集、円了講話集、初期論文

また、井上円了の思想・行動・業績については、東洋大学井上円了研究会の研究成果をまとめたつぎのような本がある。

『井上円了の学理思想』井上円了研究会第一部会、平成元年。

『井上円了と西洋思想』井上円了研究会第二部会、昭和六十三年。

『井上円了の思想と行動』井上円了研究会第三部会、昭和六十二年。

その他の文献（著書・論文・関係資料）に関する情報は、『井上円了関係文献年表』（同第三部会編、昭和六十二年）にまとめられている。

東洋大学の歴史については、『ショートヒストリー東洋大学』（平成十二年）、『東洋大学百年史』（通史編、部局史編、資料編、年表・索引編、昭和六十三～平成七年）、『図録東洋大学一〇〇年』（昭和六十二年）が刊行されている。